花かご

通　巻　第　６３　号
発行日　令和６年１月１０日
発行者　ポワ･すみれ福祉会後援会
会長　櫻井　力男
町田市下小山田町３２６７－２
ニーズセンター花の家内
０４２（７９７）６００４

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。
皆様には、お健やかに新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年も世間では、いろいろな出来事が話題となりましたが、スポーツ関係では野球の大谷選手を中心に明るい話題が多く、暗くなりがちな私たちの心を和ませ励ましてくれました。

後援会は、昨年の定期総会で新たな活動方針案・組織の改正案が承認され新しいスタートを切りました。役員を中心に会員皆様のご支援をいただきつつ、着実に進展して居ります。

本年度より確定された法人への設備・備品充実及び利用者活動資金援助の寄付、法人による地域貢献活動への支援寄付も計画通り昨年実施され、有効に利用された旨、法人より報告を受けて居ります。又、法人の将来構想に備えた未来基金も創設され、計画が動き始めています。

但しこれらの計画を着実に進めるためには、各種事業の推進・強化が必要です。会員増員なども有効ではないでしょうか。

役員と共に皆様と智恵を出し合って取り組みたいものです。
本年も皆様のご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

ご寄付（令和５年度）ありがとございました。

伊藤　和子様　　八木　浩様　　石田　キヨシ様

柿沼　洋子様　　匿名様

令和５年度会員名簿
ご入会、更新、ありがとうございました　(敬称略)

稲又　理史	石田キヨシ	鼻水　真琴	石坂　宏美	岩下ちか子
牛越　平八	内田たかよし	大野　　武	大野　晃稔	大森　貴生
鴨田　節子	吉川　　誠	楠　　麻梨	栗田　翔吾	黒沼　優矢
廣瀧　まり	小林　　実	高田美代子	十屋　　学	利根川しのぶ
利根川　宏	中川　拓海	西嶋　久恵	原　　雄三	星　　大輔
平川健太郎	藤岡　千明	藤若　義典	藤若　由宇	船越　松枝
増岡　江美	本山　徳高	吉田多摩江	吉田　陽音	吉原　　修
山田　　都				

（令和５年６月５ 日～１２月２日現在）

花かごの花々

「このコーナーは、身近な出来事を様々なかたちで発信します。
皆さんの情報をお待ちしています。」

初めまして、後援会事務局です。皆さんのこんなことあんなこと等を取り上げて皆さんと共有できたらと、このコーナーを設けました。どうぞよろしくお願いいたします。

～夜遅く自分が倒れたとき～Ｆさんの場合～

老舗事業所の生活介護花の家には、町田の障がい者福祉の歴史と共に生きてこられた大先輩がたくさんいらっしゃいます。

今回、事務局の取材に答えてくださったＦさんもそんな大先輩のおひとりです。ご自分の大変だった経験を、皆さんの参考になるのなら、と取材に応じてくださいました。

七夕の夜１２時頃、寝ようと廊下を歩いていた時、理由はわからず、ふらっとして倒れてしまったＦさん。その瞬間、痛い！身体が動かせない！廊下で横倒しになったまま身動きがとれない状態になってしまいました。Ｆさんはご主人を亡くされ、花の家に通う二人の息子、Ｋくん、Ｔくんと３人で暮らしています。

動こうと頑張りましたが動けず、物音に驚いて起きてきたＴくんに携帯電話を持ってきてもらいました。日頃から気にかけてくれている姪のＡさんに電話しましたが、真夜中で電話に気づいてもらえず、他県に住むＡさんの姉にも電話しましたがだめでした。

わらにもすがる思いで、友人に電話したところ奇跡的に電話に出てくれて、夜中の３時に駆けつけてくれました。

「救急車を呼ぼうか？」と言われましたが、ＦさんはＫくんとＴくんを置いてはいけないと思い、朝まで待つことにして寝室に運んでもらい、友人ご夫婦には帰ってもらいました。

朝までの時間は長かったそうです。痛いし、不安だし、トイレも・・。そして朝６時になったので（実際は５時だった）花の家のＳ職員の携帯に電話をしたところ、Ｓ職員が駆けつけてくれて、救急車を呼び、Ｋくんと Ｔくんは、Ｓ職員が預かってくれました。留守電に気づいた姪のＡさんも飛んできてくれ、Ｆさんは救急車で病院に運ばれました。

激痛の原因は転んだときの大腿骨点子部骨折。すぐに手術が行われました。計画相談支援事業所「かけはし」が動き、Ｋくんと Ｔくんを預かってくれるところを探し、青葉区のミドルステイ施設に決まり、Ｓ職員が送ってくれました。ただ施設が遠かったので、花の家には通えなくなってしまいました。Ｋくんと Ｔくんはこのときショートステイ初体験。さぞ不安な日々だったと思います。

その後６週間がたち、かけはしが町田市内の花の家に通えるショートステイ施設を探し、ようやく移動することができました。ショートステイ施設から花の家にも通うことができるようになり、少し落ち着いたようですが、Ｔくんは「お母さん退院します。家に帰ります。」と何度も言っていたそうです。

一方Ｆさんは、手術後すぐリハビリが始まりました。姪のＡさんが留守宅のことやＫくん、Ｔくんのことなど、親身になって動いてくれたようですが、Ｆさんはコロナ禍もあって、子どもたちの情報が全く入ってこないのが精神的にきつかったそうです。空き時間やご飯を食べている時、子どもたちはどうしているか？ご飯食べているか？・・と、Ｆさんはかなり落ち込んだと言っていました。「花の家関係のショートステイがあれば安心なんだけどね～。」とＦさん。（新米記者もそう思います。）

どちらかというとふっくらしたイメージのＦさんですが、今回のことでずいぶん痩せたなあというのが新米記者の印象です。

Ｆさんは子どもがいるからすぐ帰りたいと言ったそうですが、PT（理学療法士）.さんからは「そんな身体で家に帰ってどうするんですか。かえって迷惑かけるだけでしょう。」と怒られたそうです。新米記者が客観的に見ても PT さんが言うとおりなのですが、Ｆさんは「私は帰る。」と喧嘩したそうです。「今になるとＰＴさんの言うとおりね。」と笑うＦさんです。

ホントは３ヶ月というリハビリ期間を２ヶ月に短縮し、Ｆさんは自宅に戻りました。

Ｆさんが帰宅した翌々日にＫくんとＴくん（Ｔくんは１５Ｋｇ痩せたそうです。）も帰宅しました。Ｆさんがいつもの手料理を作ってあげるとＫくんはホッとした表情で食べていたそうです。

帰宅に先立ち、まだまだ自宅での生活に不安のあるＦさんのため、ケース会議(注①)が開かれ（入院中に介護認定をとったそうです）、ヘルパーさんや訪問リハビリの派遣を受けることになりました。

今まで、ヘルパーさんをお願いしたことがなかったＦさんは最初抵抗があったそうですが、お互いのことを話しているうちに打ち解けて、今では入浴の手助けや買物をお願いして、とても助かっているそうです。また、自宅のトイレやお風呂を使えるよう福祉用具をいれ、ＰＴさん手作りの自主トレロープも作られました。Ｋくん、Ｔくんもヘルパーさんや訪問リハの人が家に来ることを受けいれているそうです。

新米記者後記

手術後２ヶ月で会ったときは「帰れるかなあ～。」と心配になりましたが、自宅に帰ってくると元気になるものですね。生活リハビリという言葉を聞きますが、子どもたちと自宅で暮らしたいという気持ちは、私たち障がい者の母の原動力になります。

「無理しないでくださいね、もう転ばないでくださいね。」と何度もＦさんに言って取材を終えた新米記者でした。

㊟１：解決すべき課題を抱えている支援を必要としている人のために、関係者がチームとなって情報を共有し、より良い支援ができるようにするもの

～～～～～～～～～～～皆さんも考えてみてくださいね～～～～～～～～～～～

※　一人だったら救急車を呼べばいいけど子どもたちを置いて行かれない。救急の時、子どもはどうすればいいのか!!

⇒　町田消防署に電話して聞いたところ、「子どもたち（複数名でも）も救急車に乗せて連れて行けます。ただ、病院に着いた後のことは責任を持てない・・。」との回答。

※　困ったとき、助け合えないか？

日頃から SOS 電話、エリア助け合いグループとか身近な人との関係を作っておくのはどうだろう。

※　子どものことを知っている人に預けたいけどどうすれば・・。

行政支援の利用。相談支援事業所と契約していますか？　お試しでショートステイを使ってみるのもいいかも。でも緊急時に空きがあるかは時の運。

土、日夜間等の緊急時は町田市役所（代表０４２－７２２－３１１１）が対応してくれます。

日頃より、ボワ・すみれ福祉会後援会にご支援ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。後援会は今後も会員の皆様と共に歩んで参りたいと思います。今回新しいコーナーを設けてみましたが如何でしたか？ご意見や情報などがありましたら、花の家後援会事務局または各事業所後援会役員までお寄せください。

後援会　　会長　櫻井力男　役員一同